

1 策定趣旨

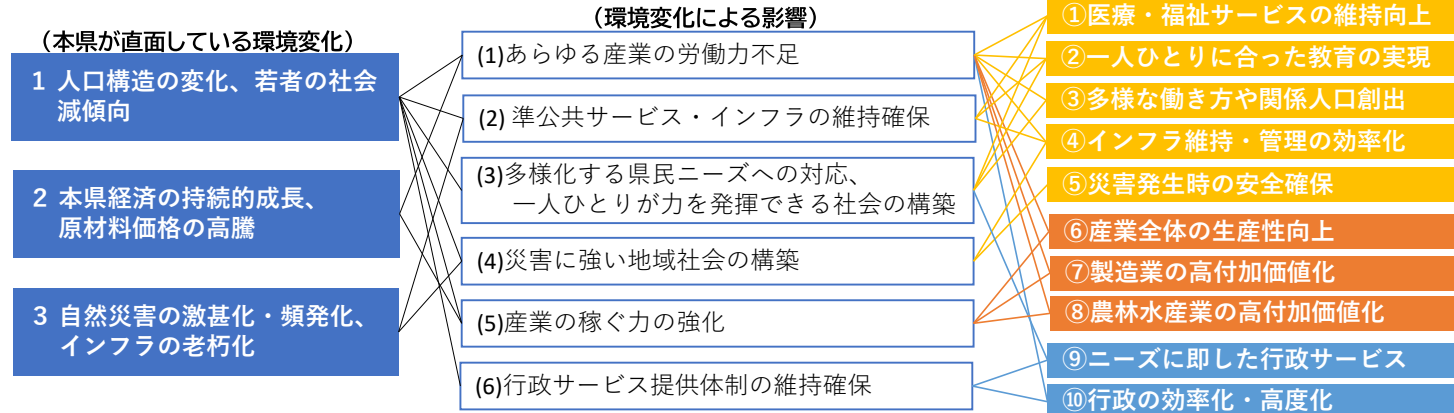
- 令和3年3月に「Yamagata幸せデジタル化構想」を策定、**県民の幸せを中心に据えたデジタル化を目指し**、あらゆる分野でデジタル施策を推進
- これまでの取組みで一定の成果が見られるものの、**本県を取り巻く社会課題を解決・軽減し、県民一人ひとりが幸せを実感できる持続可能な社会を実現するためには**、デジタルを最大限に活用し、社会変革を促す「**デジタルトランスフォーメーション(DX)**」の**重点的な推進**が必要
- そのためには**今後のデジタル施策の意義や展開の方向性を明確化し**、**県民や事業者、市町村等と共有することが重要**であるため、現行構想をアップデートし、多様な主体とDXで目指す姿を共有する観点から「**やまがた県民幸せDXビジョン**」に改称 **【期間】令和8年度～令和11年度**

2 デジタルを巡る状況

- ①社会基盤としてのデジタル領域が急速に拡大**
 - 社会生活、企業、行政でのデジタルが浸透・拡大
 - 本県マイナンバーカード交付率は83.2%と**全国6位**
- ②AIの爆発的な進展**
 - 生成AIの急速な普及、AIエージェントの開発も加速

3 本県の現状・課題

- 県民のくらし、産業、行政といった社会全体のDXが必要



4 これまでの取組みの評価

- ①分野ごとのデジタル化は進展**
 - 実証やツール導入は進んだが、更なる実証や社会実装、分野間のデータ連携による利便性向上が必要
 - ②デジタル化の恩恵が十分受けられていない**
 - 利便性不足解消に加え、高齢者層等への更なる普及が必要
 - ③DXが進んでいる主体とそうでない主体が二極化**
 - DXの取組みは増えたが、主体間で取組みが二極化、成功事例の横展開や経営層のリテラシー向上が必要
 - ④デジタル化の進展とともにデジタル人材不足が深刻化**
 - 官民とも人材不足がDXの障壁に。包括的なアプローチが必要
- デジタル技術の導入は一定の進展、今後は各分野・世代への**社会実装と仕事・生活を変える社会変革を推進**
⇒**デジタル導入期から、社会変革に向けた挑戦期へ**

5 基本方針

県民幸せDXの理念

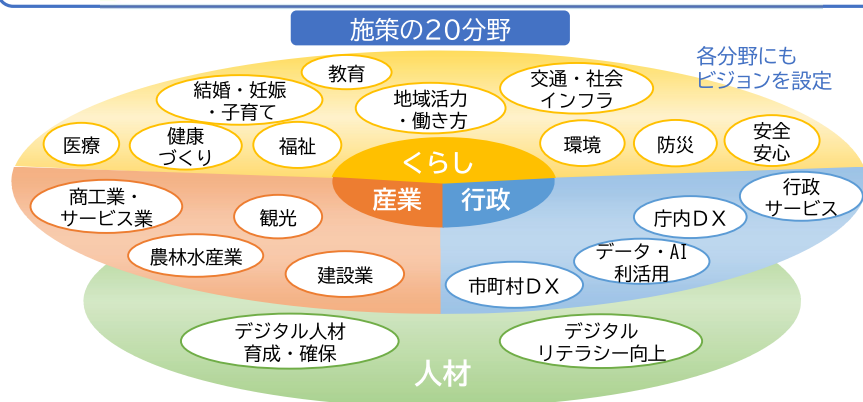
子どもから高齢者まで、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる、県民の『幸せ』を中心に据えたデジタルトランスフォーメーション(DX)

施策の4つの柱と目指す姿(ビジョン)

- くらし デジタルの力で誰もが安心して住むことができ、県民一人ひとりが活躍し、若い世代にも選ばれる持続可能なくらしの実現
- 産業 デジタルを活用した生産性向上や業務効率化による持続可能で高付加価値な産業の実現
- 行政 県や市町村のDXにより利便性が向上し、県民視点に立ったサービスを提供する行政の実現
- 人材 やまがたの未来を創るデジタル人材が育ち、社会全体のDXが実現
- ※ビジョンは概ね10年後を想定

6 シンボリックプロジェクト

医療	遠隔医療による地域医療提供体制の強化	災害時にも想定したオンライン診療モデルの普及により、通院困難な方が安心して医療を受けられるだけでなく、 レジリエンスの高い医療体制の構築 を推進
防災	災害関連情報の適時適切な提供や避難所運営の支援	防災アプリを県・市町村で共同運用することで、個別最適な情報提供による 県民の適切な避難行動 や、避難所受付等の職員の事務負担軽減による緊急性の高い 災害応急対策への注力 を促進
教育	学校教育での一人ひとりに合った学びの推進	生成AI活用推進重点校を県内4地区に設置し、 全県での生成AI活用のレベルアップ につなげるとともに、 遠隔授業の拡大 により、 習熟度別授業 等が受けられる 小規模校を増やす
地域活力	若い世代に選ばれる移住・定住促進、関係人口創出	対話型AIチャットボット導入により 24時間365日 、利用者の質問に対応できる体制整備と、よくある質問への自動対応で相談員の負担を軽減し、 個別性の高い対面相談への注力 を促進
商工業	県内製造業の『稼ぐ力』の維持・向上	各企業のDXへの 取組段階に応じた支援施策の再構築 ・デジタル技術の好事例の横展開等による 普及啓発 ・自動化・省力化による 生産性向上 ・AI等を活用した収集データの利活用による 新たな価値創出
農林水産業	スマート農業技術の普及による高品質・安定多収化	実証と開発を通じた、 水稲や果樹のスマート農業技術の最適化 を進め、高品質な農産物の安定生産につなげる
市町村DX、人材育成・確保	県・市町村の連携体制構築による地域DXの推進	・市町村職員の 意識醸成 と 市町村間交流促進 による 人材育成 ・外部デジタル人材派遣と県職員による ハイブリッド型支援 ・複数市町村の 共通課題解決 に向けた 共同プロジェクト推進



行動指針

- ①利用者目線のサービスデザインの徹底
- ②変化に柔軟で迅速なデジタル施策の推進
- ③多様な主体との共創の実践
- ④現場視点のデジタル活用推進
- ⑤データとAIの徹底活用

シンボリックプロジェクト

- ・**ビジョン実現の寄与度が大きい施策**を各分野から選定、**重点的**に取り組む
- ・急速な社会変化に対応するため、**短期目標（2年間）**を設定し、俊敏に推進